

(仮称)大阪市こどもサポートネットの構築(案) ～こどもと子育て世帯の総合的支援体制～

学校における気づきを区役所や地域等につなぎ、
社会全体で支える、新しい仕組みをつくる

(仮称)大阪市こどもサポートネットの構築 ①

こどもの貧困対策を検討するためのエビデンスが必要



子どもの生活実態調査
の実施(28年6～7月)

市内の児童生徒・保護者を対象に実施

- ・小学校5年生の児童と保護者
- ・中学校2年生の生徒と保護者
- ・5歳児の保護者

※調査票回収数70,532枚、回収率76.8%

《子どもの生活に関する実態調査から見えてきた主な課題》

1. 世帯の経済状況は、こどもの生活や学習環境、学習理解度にも影響を与えている。
2. 困窮度が高くなると、「おうちのこと」「学校や勉強のこと」「自分のこと」などの悩みごとが増えている。
3. 困窮度の高さに比例して、母子世帯の割合が増える。(最も困窮度の高い群における、母子世帯割合は53.3%)
4. 支援施策や制度は整備されているが、申請手続きをしていない世帯があり、支援制度が届いていない。



支援の必要なこども
や子育て世帯には、
複合的な課題が存在
することが多い

こどもとその世帯の
両方に着目した課題
の発見、支援が必要

(仮称)大阪市こどもサポートネットの構築 ②

《支援の必要な子ども・子育て世帯を発見する仕組み》

子どもや子育て世帯の課題を
どのように発見するのか

子どもが一日の多くを過ごす、学校に着目
⇒学校での気づき(学校生活や家庭訪問等)を活かす

こどもや子育て世帯の課題を
どのように発見するのか

こどもが一日の多くを過ごす、学校に着目
⇒学校での気づき(学校生活や家庭訪問等)を活かす

于一所学校



スクリーニング
シートの導入

★スクリーニングシートの活用

- ①すべての児童生徒を対象に、一人一人の状況を詳細に把握・記録する。
- ②スクリーニング項目を参考にし、こどもや子育て世帯の課題を発見する。
- ③チーム学校から、区役所や地域等につなぐ際の重要な情報となる。

- ## ★スクリーニングシートの活用
- ①すべての児童生徒を対象に、一人一人の状況を詳細に把握・記録する。
 - ②スクリーニング項目を参考にし、こどもや子育て世帯の課題を発見する。
 - ③チーム学校から、区役所や地域等につなぐ際の重要な情報となる。



学校の気づきを『見える化』して
支援につなぐ
(個人情報取扱いが必要)

[illegible]

(仮称)大阪市子どもサポートネットの構築 ③

《発見した課題の解消に向けて、適切な支援へつなぐ仕組み》

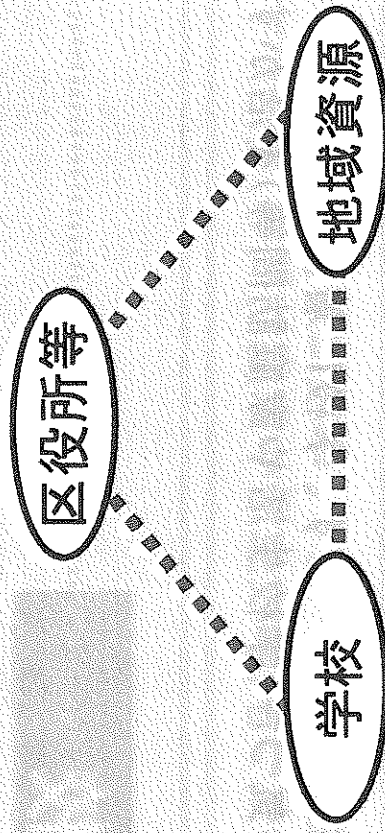
発見した課題等を
支援につなぐ



- ◎発見した課題は、教育・福祉・健康など複合的である。
- ◎学校による児童・生徒への指導だけで解決できるものではなく、その世帯全体を支援する必要がある。

- ・学校(チーム学校)
⇒教育的な指導・支援
- ・区役所(保健福祉センター)等
⇒保健福祉の制度・申請窓口
- ・地域資源(こども食堂・居場所など)
⇒身近な地域での支援

学校・区役所等・地域の支援を総合的に
マネジメントする新しい仕組み



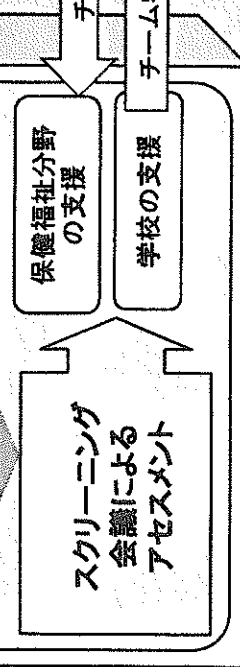
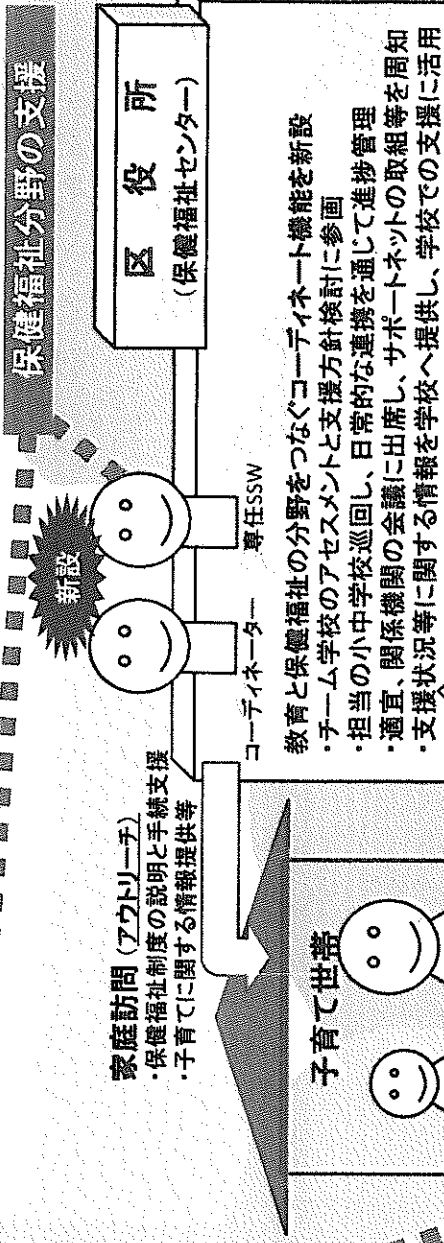
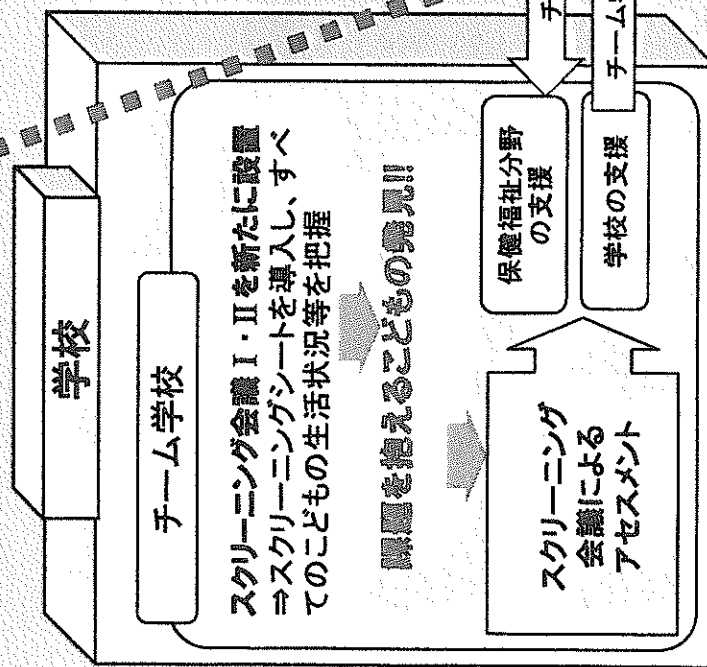
- 学校(教育分野)・区役所等(保健福祉分野)・地域資源が連携し、こどもと子育て世帯が抱える課題に対し、総合的支援を効果的に実施
- スクールソーシャルワーカーと協働するコーディネーターを設置して体制強化

こどもと子育て世帯の総合支援体制

区長のマネジメントによる新しい仕組み

- 《貧困に関するスキーム》
- ①物的資源や生活に必要な資源(収入、住宅等)
 - ②ソーシャルキャピタル(つながり等)
 - ③ヒューマンキャピタル(雇用、勤労等)

教育分野の支援



地域資源による支援

- ・民生委員・児童委員、主任児童委員、保護司
- ・NPO、地域団体等(学習・食事支援)
- ・青少年指導員、青少年福祉委員
- ・企業・商店など
- ・その他の関係機関

- ①校長・教頭・担任・養護教諭等によるチーム学校に、新たにSSW・SC・コーディネーターを加えた「スクリーニング会議」を置き、スクリーニングシートを活用して課題を抱えるこどもと子育て世帯を発見し、支援方法を検討する。
- ②教育分野の支援はチーム学校を中心に行い、保健福祉分野における支援はコーディネーター(区役所)により適切な関係機関へつなぐ。
- ③コーディネーターは地域資源の把握と開発を行うとともに、対象のこどもや子育て世帯を地域資源につなぐ。

